

幹事 田邊揮司良 陸将との対談 「防大教育への想い」

学校長との対談に先立ち、会長と幹事の対談が行われたが、合気道部の先輩・後輩にあたる関係から、なごやか雰囲気の中で、合気道開祖の地である和歌山及び伊勢神宮に関わる懇談から開始された。気心の知れた関係であり、また、限られた時間でもあったため、幹事が胸に暖めた思いを一気に語り、密度の高い時間が瞬時に経過した感じのする対談であった。

～防大教育におけるリーダーシップ～

<会長>

北の守りにあと数日で赴かれる多忙な時期にうかがい恐縮です。是非とも防大幹事として、教育にかけた思いを伺いたくて対談させていただくこととしました。（8月27日付、北部方面総監）

<幹事>

部隊勤務において以前から中隊長以下の防大出身幹部がリーダーシップを発揮しきれていないと感じていました。仕事を抱え過ぎている事も要因ですが、防大に戻り、幹事としての目で見えますと、彼ら初級～中級幹部は防大の学生時代に「学生が学生を教育する」体験を有しておらず、勤務学生はそれなりの行動を取りますが、室長が室員を指導する状況には無かった事が確認出来ました。



学生舎においては「指導官が学生を教育指導する」から「学生が学生を教育指導する」に意識を改革することが必要だと感じた次第です。年2回、学校職員の学生舎泊まり込み生活体験が行われ私も参加しましたが、このような時は、学生達も構えない自然な姿で幹事の私とも接してくれ、学生舎の実態をよく把握できました。

リーダーシップとフォロアーシップは不離一体のもので、フォロアーシップを知らなければリーダーシップは発揮出来ません。このあたりの教育が学生舎等の生活の場で、組織的に行われていなかったと感じたのです。

幹事の私としては、指導官を介しながら指導することに留意しました。学校長の学生に対する接し方は極めて温かく感服し、種々学ばせていただきました。その中でも「防衛大学校は何のためにあるのか。どの様な学生を育てるためにあるのか。」を常に考えておられ、「学生が間違っただけをやってしまったら、どう是正するかについて、指導官等が直ぐ介入するのではなく、まず学生自身に考えさせましょう」ということにご理解を得ています。その思いを幹事として各指導官に月に1回直接伝えて来ました。若い指導官はまさに「指

導官が学生を教育指導する」学生舎生活をしてきた世代ですが、思いを共有してよく努力してくれました。

～防大教育における「学生の意識」の重要性～

<幹事>

本科学生の入試制度は「推薦、総合選抜、一般（前期日程、後期日程）」となりました。新たに設けられた総合選抜は、クラブ活動等で顕著な成績をおさめ、かつ相応の学力を有する事が求められますが、特筆すべきは、その意識レベルの高さだと思います。合格した者は100%全員が着校しました。

一般採用試験における後期日程の意味合いにも関連しますが、学生が自衛隊幹部となるうとする意識の度合いは、今後、十分に現状を評価しつつ対処すべき課題だと感じています。本来の建学の精神に合致した「学生の意識（幹部自衛官を目指す強い想い）」という視点が防大の教育においてますます重要な時代だと思います。

～防大卒業生の足跡と記憶の共有～

<幹事>

防大も開校60周年となり、資料館の充実も進み、楨初代校長の肖像画も同窓会の御尽力もいただきつつ、館内のエントランスに見やすく設置出来ました。

しかし、かつてウエストポイントやアナポリスを訪問した時と比べ、卒業生の歴史、足跡が見えて来ないのです。確かに、戦後の自衛隊においては戦陣における武勲はありませんが、多くの殉職された卒業生がおられ、各種の輝かしい足跡もあると思います。例えば、冷戦構造の中における諸活動等々、その業績、足跡をしっかりと防大の歴史、記憶に残さなければなりません。ニューヨークの9.11メモリアルホールには、記憶端末による検索システムがあり、関係した人達の生き様が共有できる仕組みになっています。

防大卒業生の足跡を共有する仕組み作りは、同窓会にも御支援いただき、今後、進めなければならない大切な事柄だと認識しています。

